○いしにも苔は附く、猥にも音樂は感化を及ぼす。

○らふ燭はろの身を減らして人のために暗を照らす。

○つきは雲に掩はれて汚されず、而も拭はれて益々輝く。

○女が無くて生れた人は物の色の有無をうたがふ。

いらつめ第四十七號目次（明治卅三年三月廿五日）

●苔の花…つとめの有る世（韻文）
會の網
雨はふる〳〵（韻文）
かよわい物（繪入）
ゐなか娘（挿入韻文）
●數學…トランプ遊戯法の數理……林　梅子
第四十五號數學題解義
新題五種
●寄書…談話について……槐月陰史
江湖の淑女諸君に望む……香圃女史
●雑纂…花顔玉手秘事
漢字異語同義
初夏に掛けての流行衣類
小名木川綿布製造會社の綿布
婦人の演説
行状成績表
以太利の女子教育世界

いらつめ第四十四號目次（明治卅三年三月九日）

●插畫…もえ出る春の若草（色摺石版）
●家政…裁縫獨學び（第十二）……木下貞子○男大人の着物寸法‖女大人乃着物寸法‖三尋並の寸法‖四尋逆衽裁さする時の寸法‖二尺五寸巾六尺丈を以ての三尋裁ち方‖丈七尺八寸を以ての一尋裁方‖九寸巾二丈三尺を以ての袖裏及び胴裏の裁ち方‖二尺五寸巾六尺四寸を以ての四尋裁ち方‖巾二尺三寸長一丈二尺を以ての女服裁ち方‖並巾八尺を以ての襦まはりの裁ち方○ぬい取り獨學び（第二）……神宮華子○六角麻‖麻桔梗‖折鶴‖菊結麻‖十字木瓜○衛生料理法（第十三）……若岡芳松○鶏、牛房、筍、胡麻煮‖同別法‖鶏肉と玉子醋で食べる法‖牛の鋤焼
●文藝美術…五社百詠……俊成卿○難波船圖題文章 淨瑠璃（懸賞文藝）……三坂さゐ‖無名氏○處女の愛情（懸賞俳句唱歌）……動靈山人‖まつの‖岡本鮫子‖桂舞小史‖神谷文子‖石川のぶ子‖翠亭○其面影……美妙齋主人○俗曲改良家の意見
●通信問答
●餘興

いらつめ第四十五號目次（明治卅三年三月九日）

●苔の花…まなべ、あろへ、れふれ（韻文）…娘の勇氣…冬の朝の羽織り…出來る…春の花鳥（韻文）…栗の皮…著者ふたり（挿入り）
●雑纂…女學生の醜聞‖日本陶器小史‖漢字異語同義‖花顔玉手秘事‖其他
●廣告…

前號には**種々の新作文藝**及び脚本著作に有名の**立花家薫**君の作に係る**花兄弟第二枝梅香**また本號には**苔の花數學**花顔玉手秘事**新流行**其他種々の事が出て居ます

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

蕾の花

一名　小學校（第二）

趣意　俗語を主にして力めて野鄙を去り、そして修身を目的とする事。

第八　つとめの有る世

かあゆき　ひなの　すみかに　と
　はとハ　こにだと　巣に　はこぶ。
むかし　わすれぬ　ぬれつばめ
　やなぎが　もとの　かどを　とふ。
あさげの　かぜと　まち＝わびて
　ひばりは　雲に　のど　鳴らす。
いろ　さま〳〵の　あやあしき
　そのあ　蜂は　うたひ＝ゆく。
いづれ　つとめの　ある　世かな、
　いづれ　つとめの　ある　世　かな。

第九　いのちの綱

これハ男の子の話しです。海などの岸に居る子供ハ水の遊びを始終することで、この水のあそびといふ物が極めて愉快でもありますが、また時あよると甚だあぶないです。あまり思ひ切つた事さへ爲なければ宜しいですが子供は威勢がいゝためつひ無暗なことをして飛んだこはい目に遇ひます。

ある海の近いところに太吉といふ十二三の男の子が有りました。この男の子は中々馬鹿でも有りませんが、しかしハなはだいたづら者でした。ある日の事、丁度友だちも來なかつたゝめ只一人で海の方へ出かけて何かと遊びの種を見つけて居ました。折りから此頃は鴨が玉子を生む時節で、其海の岸の邊に鴨がちらはら見えました。皆さんハ御承知かも知れませんが、鴨は玉子を恐ろしい切り岸のけはしい處あ産む鳥で、すなはち人がどうしても近付けぬ處を見立てゝハ其處へ巣をこしらへて其中で雛を仕立てます。太吉は生れてから今までもこの海の邊に居ましたからその鴨の玉子の生み方などをも知つて居ました。不圖其處を飛ぶ鴨が目について、「はゝア何處かに玉子を産んであるのだな」と氣が付

きました。

もとより遊びの種を見つけて居たことゆゑ、今のこの思ひ付きは太吉には實に何とも言ひ盡くせぬ程嬉しかつたです。それにしても其玉子のあるところを確に見つけなければ爲らぬと思つてそれからやがて鴎の行つた方に向つて海岸の切り岸へ這ひあがつて其處此處と見まはすと、この切り岸は海から凡そ六七丈も有る高さで、其中程の下の處の、一寸した岩の破隙にいかさま玉子が有りました。　しかも其傍に鴎がとまつて居ました。　之を見るやいなや太吉は飛び立つ程うれしくなりました。

（つゞく）

第十　あめは降る〳〵

あめは　ふる〳〵、はるの　夜　しづか、
　のきの　つばめの　ひそ〳〵　夜鳴き。
ひとつ　小うでの　はだ　なめらかに
　あすは　たのしみ　さくらも　咲かむ。
あね　よ　いもと　よ、うろひの　簪
　花の　ふぶきに　あす、明日　むせぶ。

第十一　かよわい物

よわい物を見て憐れまず、かへつてそれを苦しめなどかするほど臆病なことは有りません。　小供衆はこ

こにある圖を見て何とおぼしめす？はたして憐れと思ひますか、またはいゝ氣味と思ひますか？　是は誰も知る龜です。

龜は這つてある㊀

㊁く動物の一種で常にあるくには腹を下へつけて行くうまれつき、それゆゑ手足のはこびは最も不便で、水の中ならそれ程でも有りませんが、陸の上ではまことに哀なもの、それがこのやうに倒れたのです、その不幸は言ふまでも有りません。　よく御覧なさい、どれ程あはれな体でしやうか？　之を見て心の正しいものは直に憐れむ情を起して起してやりますが、得てわるい心のものに限り之を猶いぢめて愉快とします。　それらを殘忍の人といふのです。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第十二　ゐなか娘（むすめ）

ゐなかむすめの　みやこぶり
　はやりの　洋服（やうふく）　あゝ　うれし。
かきねの　はなの　さくらいろ。
　かほも　きものも　ひとつ　いろ。
いろ　めづらしき　野邊（のべ）に　でゝ
　見（み）れば　わが　みは　女王（によわう）なり。
きのふに　かはる　いでたちに
　ねだの　からすも　あきれ＝がは、
女王（によわう）、女王（によわう）　と　はめ＝そやす。
　むらだち＝むぎの　みすの　かげ
はちてや　すがた　かくしつゝ
　こうたを　もらす　みそさゞい。

るりの　しとねの　わかくさも
　この　身（み）の　ものか、　さても　さて。

數學

トランプ遊戯法の數理　前號のつゞき

縁梅子

八枚の札をふせた時の當て方を御覧なされた方は直くに次の樣な疑問が泛びませう。　十六と云ふ法は何うして出來たでせう？　十六に餘札の數の二倍を加へれば何故ふせた札にある數の總計となるの？　これを説明する前に餘のない場合に就て考へなければなりません。　もし餘がなかつたなら總計は幾つになりませう？ 十六になるのは勿論です。　言葉を換へて云へばふせる札にある數の總計が十六になる時は餘札がないとも云はれませう。　で、奇數ばかり八枚の札で十六の總計になる樣に作るには一の札と三の札を各四枚ヅヽ取るより他に仕方はありますまい。　この八枚の札の上に規則の通り札を載せるに果して餘る札はありません。　これが十六と云ふ法の起因です。

一の札と三の札とを各四枚ヅヽふせれば餘札のないことは既に言ひました。　今此の内で三の札を一枚次の奇數五の札と取換へたなら何うなりませうか？　必ず一枚の札を餘します。　これは何故です？　上に載せる札は連奇數の順に數へるからです。　即ち前には三五七九十一十三と數へ後では五七九十一十三と數へて前より一枚少なく數へたからです

此の時其總計は何うなりました？　三の換りに五を用ゐたから前より二つ多くなッたでしやう。　更に其五を次の奇數七に取換へたなら前と同じ理で更らに一枚を餘して、最初に比ぶれば二枚多く、　總計も更に二つ增して最初に比ぶれば四ッ增しましやう。　で、次の樣な事が譯りました。　總計が二つ增す每に一枚の札が餘る事。　これを言ひ換へれば「札が一枚餘る每に總計が二つ增す」ともなりましやう。　即ち餘札のないときの總數より餘札ある時は其餘札の二倍丈け多い總數を得ることになります。

群の數が九の時に法が三十一なのは八の時に法が十六であると同じことで、九の時は總許が三十一になる時ばかり餘札がないのです。　九以上も其理は變りません。

前に言ひました言葉「群の數が一つ增せば法は十五を增します」の數理を説明するは無益なとでもありません。　それ故少し言ひましやう。　今八枚の群を一三一三一三一三として此の上に各規則通り載せたなら、　一の上には六枚三の上には五枚ヅヽありましやう。　此群の內孰れにか十三——即ち王——の札を載せてある群がありましやう。　今之を載せて

居るのを三として、其内から十三の札を取ッて殘りを規則の通り數へて、不都合のないには三——十三の札を取つた群の三——の換りに五を置き換へなければなりません。其譯は十三の札を取らぬ前は五七九十一十三と數へて五枚の札が載ッて居ました。けれど今は四枚になりました。それ故三の次の奇數即ち五でなければなければなりません。ですから五の札を捜して三の札を取換へれば宜敷いです。これで餘札一枚もなく九ッの群が出來ました。これを八の群に比べたなら群の一枚の三が五になッて更に十三の札が増しました即ち總計に 13+(5−3)=13+2=15. を増すことが譯りました。もし十一——即ち兵——を十三に換へたなら更に十一の上に載せる一枚の札が入用です。從ッて三は五に變らないで七に變ります。もし五に變ッたにしてもそれ丈けでは濟みません。必ず別に一が三になるか三が五に變ります。

此結果を式に顯はせば、 11+(7−3)=11+4=15或は11+(5−3)+(3−1)=11+2+2=15或は11+(5−3)+(5−3)=11+2+2=15. となッて十三を用ゐたと同じ結果を得ます。右は十一を換りとした例ですが何んな數を換りにする (13−A)+{(+5+A)−3.}の形状となります。此式を簡單にすれば、13−A+5+A−3=15となッて、十三の換りに何を用ゐても同じことです。十一の場合をこの公式に當て嵌めれば次の通りです。(13−2)+{(5+2)−3}=11+(7−3). 右の理を推して九の群を十の群にするも十の群を十一の群にするも皆同じ理です。

今までは重に群の數が八以上の場合に就て言ひました。これから八以下の場合を説明しましやう。八以下の場合も大体は八以上と變りません。が、たゞ常滅數が有る丈けの相違です。ですから常滅數を説明して此稿を終りましやう——餘り長くて御退屈でしやうから。

常滅數とは餘札の數から必ず引去る數です。この常滅數を餘札の數から減じ出來た數を八ッの群に言ッた餘札と同じ手數を經れば總計が知れます。畢竟常滅數をトランプ全体の數五十二枚から減じたなら、八ッの群の樣に出來る丈け總計を少なくして載せ切る丈の枚數となるのです。それ故常滅數丈けは初めから引去ッても差支ありません。例へば五ッの群で成る丈總計を少なくする——即ちトランプの數を成る丈多く使ふ——には一一一一三に限ります。此の上に載せる札の數は六六六六五の和即ち二十九です。ですから常

減數はこの二十九と下に布いた五枚を五十二枚から減じた殘即ち52－(29＋5)＝52－34＝18です。(前を御覽なさい)(完)

第四十五號解義

縁梅子

●算術

(1)此問題ハ題意が不充分で、諸孃が解に苦んだとは御察し申しませ。　之れを充分にするには一素數の上に「十一或は百一の如き本數と顚倒數と差異なきものを除く外」の言葉を附け加へねばなりません。　此言葉がなければ問題になりません。　これ等は出題者の注意すべき事でそ。

總て公約數と有する二數の差と其二數の一とは又同じ公約數を有するものです。　もし素數と其順倒數と公約數を有するとすれば、前の理に依ッて素數と其顚倒數とは亦同じ公約數がなければならぬ筈です。　それに素數は其數自身の他に約數はありません――一ハ約數と云ひませんから――素數其順倒數との差ハ其素數の倍數でなければなりません。けれど、一數と其順倒數との差は必ず九の倍數(例へば73－37＝36＝4×9)です。　前に云ッた通り素數は其數自身より他に約數はなきもの故、もし其轉倒數との差が其素數の倍數であるならば九で除ッた商も其素數の倍數でなければならぬが、九で除ッた商は素より一位少くなッて、素數の倍數とはなりません。　それ故素數と其轉倒數との差との間には公約數なく、從ッて素數と其順倒數とは公約數を有せざる事は明白です。

(2)答十二分の五度。　(解)華攝列三氏の氷點と沸騰點との間は九五四の割合です。　ですから華氏の八十度ハ攝氏の$(80-32)\times\frac{5}{9}=26\frac{2}{3}$度、列氏の二十一度は攝氏の$21\times\frac{5}{4}=26\frac{1}{4}$度となる故、甲室は乙室より$26\frac{2}{3}-26\frac{1}{4}=\frac{5}{12}$度暖かです。

(3)答午前二時十分二十四秒

(解)116度－4度45分＝111度15分……兩地の度差、

111度15分＋(360度＋24時)＝7時25分……兩地の時差、

9時35分24秒－7時25分＝2時10分24秒……答。

(4)答五百或は五百四十四或は五百八十八。　(解)4で除ッて4剩るのは4で割り盡すことです。　そして4を以て除ることの出來る數は其數の十位以下をも除ることの出來るものです。　4で割れて單位と十位の數字が同じなら、00 44 88の三種より外にはありません。00として5を引去れば十位以下

は95となる、此の百位を何んな數にしたなら十一の倍數となるでしやう？　三位の數で一位の數と百位の數の和が十位の數と同じか或は十一多い者です。　この數理より95の百位は $9-5=4$ なることが知れました故、　題意に適した數は $495+5=500$ です。　他の二つの場合も同じ理で答は得られます。

●代數

(1)答 $\sqrt{(\sqrt{x})^2+(\sqrt{x}+a)^2}$.

・(2)注意！　本式の2は x の誤植でしやう！　(解)四式を加へて $3(x+y+z+u)=210$.　$\therefore x+y+z+u=70$.
此式より第一式を減じて、　$u=10$. 第四式を減じて、　$z=25$.
第三式を減じて、$y=20$.　第二式を減じて、$x=15$.

算術　　　緑梅子

(1)二と五を除き其他の素數より一個少く九を連ねた數は其素數の倍數を爲す

(2)或人一年に三十六圓と衣服一枚の約束で一人の僕を雇ひました。　が、七箇月の後暇を出すとき十六圓と衣服一枚を與へました。　この衣服の代價は何程？

(3)若干人で若干日に一つの業を成すとして其人員の三分の一を減らし日數を七分の二增したなら其業の幾分をなすことが出來ましやう？

(4)一升三十錢の酒八斗を有する人が清水若干升を混ぜて一升の價を二十四錢に賣ッて原價の十分の一利益を得ました。混ぜた清水の量は？

代數　　　緑梅子

(1) $(x-2)(x-3)(x-4)(x-5)-99$ を素乘に分括せよ

(2) $b^2-\{5ab-(a-3b)(b-3a)-a(a-b)\}$.は a b の値の如何に係らず負量となる

前號正誤　數學欄にて算術の第二問題華氏は華氏の誤りで、又第四問題の4を剩しれ2を剩しの誤りでした。　又た代數の第二問題の　$u+y+z=55, u+x+z=50$ の各 z れ x の誤り、又法は値の誤でした

寄書

談話に就いて

槐月陰史

婦人の柔和雅致なのハ「優美」なものです。ですから、談話をする聲も唱歌を歌ふ聲と同じ様につとめて之れを琢磨いたなら、聽く者も快よい事でせう。

さて、其聲を琢磨くことハ果して出來るものでせうか？私は飽まで出來る事と信じます。　なぜです？　一概にも云へませんが夫の俳優の聲は滑らかで、そして清らかでせう。

また英國の兩女王アーン、メーリーの聲を清朗にしたのは女俳優ミセスペッテルトンの傳習したのだと聞きました。で、　聲ハ傳習すれば清朗になることとは知れました。うれ故いらつめ第三十九號に出て居る「美聲の心得」を讀めば宜しい様です。　けれど、たゞ聲が美くなッたばかりではまだ足りません。　既に聲が美くなッたなら談話の禮式も知らねばなりません。　其談話の禮式は人の談話を聽くとき決して其言葉を妨げてはいけません。　そして其間眼は話し懸けた人を觀て居て、他の物に移してはいけません。　しかし粗暴しく觀るのは失禮です。　又自分から談話をするにハ成る丈け爽快するものです。

これで、まだ淑女方に諫めなければならんのは大聲と小聲です。　私は西洋人が日本婦人の高笑ひを嘲笑ッたことを聽きました。　即ち斯うです。「私にハ挽臼の音が聲てにますのに數粉が見えません」何と遺憾な事ではありませんか。このいらつめを讀む方々にハ何うか此樣な評を附けられたくないものです。　又耳語は同伴のものに自分の思想を通ずるのですが傍の人の心情には不快の感じを與へるものです。たゞこれ斗ではありません。　大に淑德を損なふものです。

ですから諧謔にも耳語をして後微笑する樣な事をしてはなりません。

江湖之淑女諸君に望む

香園女史

妾ハ、伊賀の片田舍に、寄留到して、居る者ですが、幼い時から「成長したらハ、女學校へ、入學させて、下さい」と兩親に、願つて、居りましたも、早や昔し、本年取つて、十六歳、未だ、其意を得ず、日々、母の膝下で、家事にのみ、從事して、居ります、が、妾とても、隨分、小說を讀みました、其れの中にハ、往々、女學校の、事等が、書いて、有つて、女學校の、事と云ふと、大底、色情の事が書いて、有りまして、女生徒が、寄ると、障ると、男子の、批評を仕たり、敎師の、惡口を、言つたりして、實に、淑德と具へた、淑女の樣には、書いて有りません、妾ハ、未だ女學校の事ハ、知りませんが、女學校と云ふ者は、其う云ふ者でしやうか、いに々、其うでは、有りますまい、荀も、女學校と云ふ者は、文明之母、天下の賢女となる可き者を、養成そる所では、有りませんか、然らば、其文明之母たり、天下の賢女、たる可きものが、色情の事等を、仕て居れましようか、然し、東京には、女學校も多い事、中には、不品行な生徒が、無いとも、云はれません、假令有たにしろ、其れは、萬分の一も、無い位でしよう、其の一も無い位の、不品行な、生徒のみを見て「女學校へ遣つても、好いが、人が惡く成つて、男でも、據らへると、却て恥だ、其よりも、人家に置て、針仕事でも、數へて置方が好い」、等と、其の惡い所ろのみを見て、一般に、女學校へ、遣らない方が、好いと、言ふ人も有ります、實は、妾も、其が爲め、入校するを、未だ許されません、不品行の、生徒が、有る爲め、一般の、女學校が、汚名を被むるとは、實に、遺憾な事では、有りませんか、鳴呼江湖之、淑女諸君よ、若しも、妾しの心を、御察しに成りましたらば、此の不潔なる、汚名を雪ぎ、世の人をして、完全なる、清潔なる、女學校で有ると、言ふとを、知らしめ玉へよ、

口には、金言を、稱へて居る、所の、令孃でも、其行が、賤の女よりも、劣つて、居たならば、高等の、敎育を、受けた甲斐が、有りません、其れでは、淑女とは、言へません、願はくば、淑女諸孃よ、我が日本國家の爲め、淑德を具へたる婦人となり、志操を高尙に、節義を守り、品行を方正に、道德に據り、身体を自重し、誓て淑女の体面を存じ、學藝を勵精し、專ら、家政に從事して、天晴れ、天下の、賢女たらんとを、

雜纂

夏へかけての流行

すこし早過ぎるやうですが、夏へかけての衣類の流行を大抵さぐりましたから載せます。尤も前々號に一寸吹聽したチル縮は五十七八錢から七十錢ぐらゐな、極めて手がるい處で買へます。　流行の夏もの〻見込は左のとほり、

友染ちりめん、小紋ちりめん、何れも薄色もの。　尤も暑中になッては明石ちゞみ、透屋、上布のるゐ。

帶地、繻珍、緞子、黒唐繻子、又は福通おりの類

外に流行の見込のあるのは雲井織ちゞみとチル縮、雲井おりちゞみの方は六十錢から七八十錢ぐらゐなところです。

小名木川綿布會社の織物木綿類

曾て七十萬圓の資本を投じて英國から織物機械を買ひ、その以來木綿織物に盡力した小名木川綿布會社はいよ〱その規模も整ッたとの事で日本橋通三丁目に布屋といふ小賣店を出しました。　同社の製品の精良なのハ今更言ふ迄も無く、賣る處は唐棧、綿フラ、天竺、綾小倉、白縞ちゞみ、新形浴衣地、すべて、家政向きの品々です。

婦人の演說

一度ならず二度までも或は厚生館、或は富士見樓にあッた婦人諸氏の演說については婦人諸氏の擧動といひ、男子の聽衆の無禮といひ、いづれもわれ〱は長大息を發します。婦人諸君の熱心ハ元より賴もしい事、たゞその所思を漏らすのは必しも演說を俟たずともの事、ひるがへつて見れば聽衆の男子の無禮至極、すでに演說を聞きに來た事ならば其作法をも爲べきこと、たゞ下がゝッた言句を發して辨者を嘲弄したなどゝは聞くさへ不快の至りです。　全國の婦人諸君、今の男子が諸君に對する敬禮は前後みな是です。　之をひるがへさせるのは諸君の決心にあるばかりです。

行狀成蹟表

女生徒の行狀成蹟表を女學校でつねに作り置いて、その女生徒が卒業した上の保證とし、婚嫁のたよりにしやうとの說が或る敎育部内に催したとの事、如何にも思ひ付きです。或は繁に過ぐる手數がかゝるかも知れません、又女生徒を不自由に束縛するか知れません。が、一身の淸淨潔白が正に之によッて他日證明が出來る事なら些しばかりの不自由は厭ふところではありますまい。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

伊太利國女子敎育世界

大日本敎育會雜誌第九十五號に豐田芙雄子の通信ふかゝる伊太利國女子敎育世界の略說を載せてありました。今その中の重なところを拔粹すれば左の通りです。

「伊太利にハ女子の工業敎育盛ふして、則ち女子職業學校なるものにハ其一二頗る整頓せるものあり…學科は普通小學を修めたる生徒ふ授くるものにして文學科、手藝科、割烹、及び火熨斗などの科を置く、其概目左の如し

文學科

(一)伊太利文典
(二)伊太利歷史
(三)ふらんす語
(四)書取
(五)往復文
(六)習字
(七)數學(算術簿記法利足割等)
(八)圖畫(在學中修めしむ)

手藝科

(一)造花
(二)縫取
(三)裁縫
(四)毛糸編物
(五)ダンテル各種
(六)窓掛寢具などの修繕
(七)器械縫取
(八)メリヤス類

右を日本の現在の女子敎育と比較したらば何うでしやう。一目見たところでは日本の方がはるかに高尙です。

花顏玉手秘事(二)

大きな手を小さく見せる法。わり合ひに手が大きいのは婦人に取ッてあまり見よくも無いことで、可愛らしい處が減ります。之をまぬかれるにハ襦袢の袖にちと氣を付ければ宜しいのです。手の大きい人は襦袢の袖を長くしてなるたけ手にれはく被るやうにし、而もその被り方も縮緬などでしつとりとなるのが宜しいのです。流行ふよッては襦袢の袖口が長過ぎるのが衰へもしますが、流行にかゝはらず手の大きい人はやはり長く袖をした方が大變に手を小さく見せるも

のです。　婦人洋服にレースの袖口などを付けるのも亦このためです。

猶手を小さく見せるためには大きな手の人は成るべく指環を用ゐぬに限ります。　指環も細手のならばまだ我慢も出來ますが、寶石入りとか平板とかいふのは全くいけません、いよ〳〵指を無恰好に見せるものです。　なるたけは全く用ゐぬに越した事はありません。

手の指の太い人はその爪をすこし尖らせて細手にするとやや指の細く見ゑますが、猶こゝに一つ面倒な法が有る、それを用ゐれば何より角よりうまく成効が有ります。　即ち指の甲にのみ白く白粉を引き、指の横腹および腹には何をも塗らないのです。　これこそは實に細く見せるもので、白粉ののッた部分がいよ〳〵細ければ細いほど指は細く見えます。

漢字異語同義（前號のつゞき）

秀溪子

いきほひ

勢　其氣が形よりうちこしてみゆる事

いのちながし

壽　人か命のながい事

いきる

生　其氣が内にあつて、死なゝいこと。　息のかよひのある事。　うまれてくる事。

活　其氣が内にあつて、活動する事。　水の流るゝ樣にれもふまゝに動くきみ。

存　もうあるまいと思つたものが存生してをる事。　かくれたものの存生してをる事。

蘇　よみがへると訓します。

いさをし

功　そのしわざのしるしがあつて、人の目に見ゆること。

績　麻をつむやうにわざをつんで、ことをする事。

勳　勛はその古字です。　其功が成就して、身に光りかあるきみ。

烈　火のもえあがるやうにその氣のさかんな事。

いたはる

勞　骨折のしるしができて、みゆる事。

營　始終あくせくして、苦勞のはなれぬ事。

いぶかる

訝　うたがひ、あやしむこと。　ふしんをうつきみ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小名木川綿布會社織物販賣

同社ハ府下屈指ノ富業家ガ七拾萬圓ノ資本ヲ投シ團結組織シタルモノニシテ織物機械ヲ英國「マンチエスター」ニ購入シ一大工場ヲ府下小名木川ニ建築セシハ既ニ三年前ニアリ而シテ今ヤ專ラ綿布織物ノ製造ニ從事ス抑モ該發起者諸氏ノ目的ハ一ハ外國輸入品ヲ防キ一ハ其事業ノ進歩ト共ニ製品ノ販路ヲ海外ニ擴伸スベキノ計畫ニテシ我ガ本邦工業發達ノ萬一ヲ補佐シ併テ商業ノ繁榮ヲ將來ニ期スルノ精神ニ外ナラス左レハ其製造品モ前ノ目的ニ反カズ第一原料精撰、第二横杼緻密、第三染色不變、第四巾長有餘、第五着用久シキニ耐フル等之ヲ要スルニ全社織物ハ外國輸入品ニ比ソ價ハ遙ニ下位ニ在ルモ品質ニ至テハ一歩モ讓ル所ナシ蓋我カ本邦内ニ於テ機械ヲ以テ斯ル日用必需ノ織物ヲ製造スル會社ハ當今小名木川綿布會社ヲ措キテ他ニ求ル所非ルベシ然レ圧其創立ノ日猶ホ淺ク隨テ製品未ダ全般ノ需要ニ充ルニ足ラスト雖圧増設ノ機械据付モ日ナラスシテ竣工ヲ告グ製品今ニ倍蓰セン依テ普ク全社織物ノ實利アルヲ世上ニ示シ其好評ヲ博スルノ日蓋遠キニアラザルベシ茲ニ弊店特ニ全社織物ノ販賣ヲ約シ極メテ薄利ヲ以テ廣ク其賣捌キニ從事セントス依テ二三物品ノ名稱ヲ記スヿ左ノ如シ

一 唐棧縞
一 綿フランネル
一 天竺木綿
一 綾小倉
一 白縞縮
一 新柄浴衣地

右ノ外三巾物風呂敷前掛等各種アリ又卸賣モ仕候

前述ノ通リ誠心實意ヲ以テ專ラ全社織物ヲ販賣仕候間偏ニ御愛顧アランヿヲ希望仕候且ツ右ノ趣御懇意ノ御方々ヘモ御吹聽ノ程願上候

東京日本橋區通リ三丁目四番地
布屋敬白

社告

音樂學校教官上眞行氏が前號の苔の花にある唱歌に新しく譜を作って送られましたが時日が無かつたゝめ間ニ合はず止を得ず次號にのばしました唱歌は譜を得てはじめて完全になるもの、吾々ハ氏の妙譜によつて讀者諸君も滿足されるのを祈ります又

曾ていらつめや都の花で脚本を掲げ常に世間の喝采を博した立花家學士の作の脚本は御覧のとほり前號から出ましたが引つゞきこれも出しますまた前々號のいらつめに掲げてあつた美妙齋氏の空行月といふ小說は未完のものとて其跡をいろ〳〵今日まで御督促になりますがあれば主人が全く斷念されたもので其埋めあはせを是非その内にするといふ事ですから折角御待ちを願ひます

又本號に前號の餘興解答用紙を入れる筈の處つひ手がまはらずふ延引しました

右御挨拶までに

成美社

前々號雜破船題の永島芳子氏の歌につき些〳〵一時本社で疑惑を挾みましたが全く右芳子女史の自作の事が判然しましたゆゑ此段諸君へ御知らせ申します　成美社

懸賞小說募集廣告

●題 春季ニ係ル者　●頁數 一頁十二行一行廿四字詰五十頁以内　●文体 何種を限らず　●宿所 姓名は別紙に認め原稿には別號亦は符號を記する事　●期日 四月十日限堅〆切　●賞品 壹等 金拾圓　貮等 金五圓　三等 金貮圓　以下秀逸之分五種を撰拔し以貝都女一ヶ年分より三ヶ月分迄亦ハ其に相當する書籍雜誌を贈呈する事　●撰者 山田美妙齋主人　●受賞之小說 は此を以貝都女に掲載するか亦は一部の書として出版する事　●原稿届所 大阪市西區南堀江上通四丁目百十四番やしき

嗜文會

少年文武第三號目次

○少年龜鑑
●和氣清麻呂の圖　川邊御楯
○少年文武
●頭八咫烏
○講說
●人生の業著述より大なるはなし　内藤耻叟
○少年寶庫
●元寇顚末　岳仙叟
●普佛戰爭記　局外生
●水百姿　博士 フリードリヒ、ハアフ
●活木馬奇譚
○雜錄
●西印度人難だめーの圖●理科日記（蝴蝶狂生甲蟲博士各週筆記）●見狩（棋戲）●西洋滑稽繪卷物いたづら書生おてんば娘
○雜報
●刀劍を愛させ給ふ●海陸軍大演習●少年必讀書●松明と燐火●拳實●時きたる種子のみ●雛祭●パノラマ●新著百種第八號●小說家の產物●春眠不覺曉●流行感冒●霧中の人●健康國
○懸賞及ヒ寄書
○附錄
○演說會○繪畫會●文藝會●談話會●笑覽會○寄書
●初旅　饗庭篁村
●自由の一箭　戯城山人

毎月一回發兌一冊金八錢六冊半年分前金四十五錢（無郵送料）
十二冊一年分前金八十五錢